

図-5.2 拡幅盛土および両直型盛土の耐震設計手順

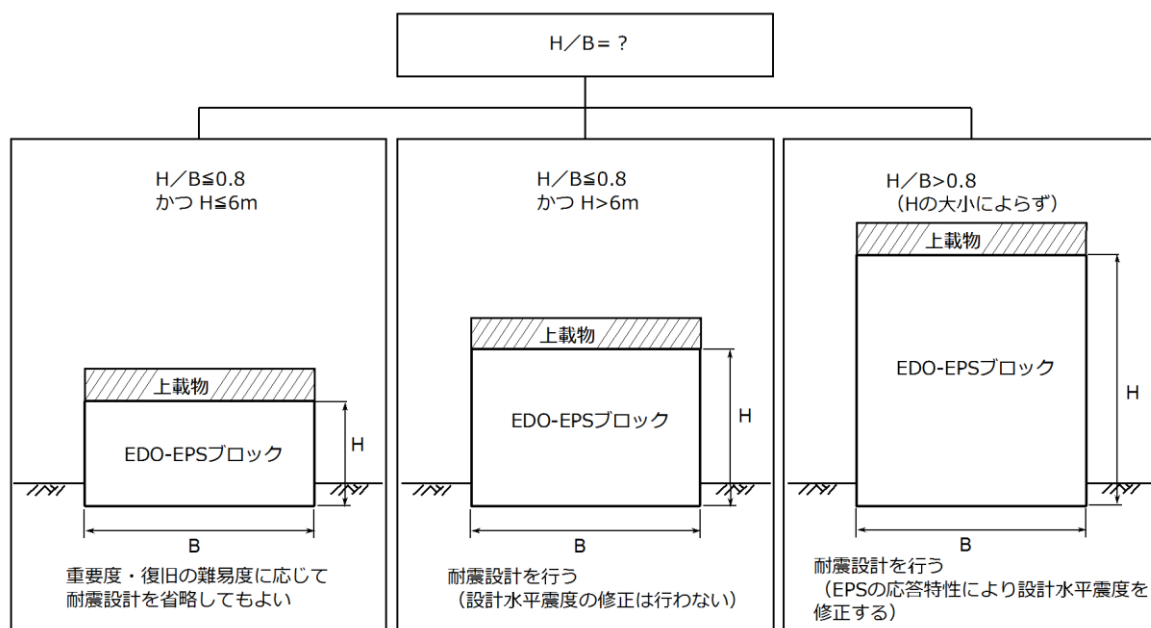


図-5.4 EDO-EPS 盛土形状による耐震設計の要否および設計水平震度の設定の判断

5.3.2 地震の影響

(1) 基本的な考え方

EDO-EPS 盛土に作用する地震時の荷重状態として、EDO-EPS 盛土の自重に起因する慣性力と背面裏込め材の地震時土圧を考慮する必要がある。しかし、既往の地震被害調査結果や振動台実験結果ならびに動的解析検討結果によれば、常時の作用に対する設計・施工を綿密に行っておけば、地震の影響を特に考慮しなくても、通常規模の地震に対して機能的に耐え得ることが認められている。

これらのことより、盛土高 (H) と盛土横断幅 (B) の比 H/B が 0.8 以下で、かつ高さが 6m 以下の EDO-EPS 盛土では、盛土の重要度や復旧の難易度に応じて地震時の安定検討を省略してもよい。

地震時の安定検討で考慮する設計地震動のレベルについて、表-5.2 を参考例 17)として示す。